

# 法輪大法

各地での説法一

シンガポール佛学会成立式典での説法

李 洪 志



# シンガポール佛学会成立式典での説法

李洪志

一九九六年七月二十八日

こうしましょう。私はここに立って、皆さんよく見えるようにします。各方面で法輪佛学会を支援して下さったシンガポールの各分野の皆さんにお礼を申し上げます。また、私は皆さんを代表して法輪佛学会の設立にあたって我々を支援して下さったシンガポールの各分野の皆さんに感謝の意を表したいと思います。皆さん、拍手をお願いします。(拍手) 佛学会の設立によって、より多くの人が法を得ることになり、更に多くの縁のある人がこの法を学ぶことができるようになります。国の法律の保障の下で、今後、皆さんにとって煉功にしても、多くの民衆のためにこの素晴らしいことをより良く行うことにも、便利な条件を提供してくれました。

あまり準備をしていませんので、これから、この大会の機会を利用して、思いついたことを話してみたいと思います。まず法輪功について少し紹介します。法輪功の歴史はかなり長いのです。修煉界の人はみな知っていますが、人類社会において、文明は一度だけ現れたのではなく、人類社会に何度も文明が現れたことがあります。長い歴史の中で、人類の道徳が次第に退廃に向かった時、人類も没落に向かっていきました。大体このようです。しかも、その発展は最後の時期に至った時、物質の変異や精神の退廃がすでに最頂点に至った時、人類の道徳観念の没落をもたらします。このような状態の下、人類が没落に向かうことになります。人類において何度もこのような状況が現れたことがあります。ですから、人類の文明も一度だけではなく、何度も文明が現れたことがあります。人間の言う石器時代も一度だけではなく、人類に何度も現れたことがあります。人類にこのような厄介なことが現れた時は、すべての労働に必要な道具とすべての知識も壊滅されてしまいます。

皆さんは知っているように、今期の人類文明の初期、四、五千年前に、この地球上でかつて一度大洪水が現れたことがあり、全ヨーロッパの白人の文明は完全に壊滅されました。当然ながら残された遺跡は非常に少なく、一部の遺跡から少し先史のものが見られます。例えば、大昔のギリシア文化から残されたいくつかの出土品の中から、また少し先史文明が存在した痕跡を見つけることができます。東方では、大洪水の後に残されたものは比較的多かったのです。皆さんは大禹（たいう）治水の物語を知っていますが、当時の洪水は非常に大きかったのです。水が引いた後、大禹は人々を率いて浸水した大地の水を排出しました。歴史上にこのような記録があります。人類の当時の古代文明、前期の文明は洪水により壊滅されましたが、中国人の祖先は洪水の後に多くの人が生き残り、文明も比較的多く残されました。西洋人は生き残った人が比較的少なかったので、今の西洋文化は、いかなる古代の歴史の背景もない全く新しい文化です。このように中国の古代文明には非常に長い歴史があり、しかも、現代科学の歩んだ道と同じ道ではありません。

これらの古代文明の中には、現在の人が分からぬものがたくさんあり、しかも現代の文化と関連もありません。ですから、西洋人を含む多くの人が知っているように、中国には多くの神秘的なもの、現代人が解明できないものがあります。中国人もそれを知っています。中国には、現代人に認識されていない多くの古代文化があります。それを聞いたこと、見たことがある人もいますが、解釈することができません。それらの古いものを公に人々に説明する人もいません。当時、中国人の祖先は残された人が比較的多かったので、上古の文化が一部残されたのです。

昔、上古時代の中国の種族の中心地帯は今の黄河流域ではなく、新疆の辺りでした。当時この民族の最も繁栄した時期もこの辺りに現れたのです。昆仑山がこの近くにあり、周囲の地形は比較的高く、当時の洪水は二千メートルあまりの高さに達し、全地球に及び、多くの人は洪水が発生した時、昆仑山に逃げ込んで生き残ったので、一部の上古時代の文化が残されました。例えば、中国には今でも人々が解明していない河図、洛書、太極、先天八卦などがあります。今日の人々

が認識した一部の古代の氣功もそのようなものです。

はっきり言いますと、この氣功は、現在の人々が発明したものではなく、一種の先史文化であり、中国には比較的多かったのです。昔、氣功は氣功と呼ばれておらず、何と呼ばれていたのでしょうか？ 修煉と呼ばれていたのです。もちろん、修煉には次元の違いがありますが、常人社会のこの次元においては、ただ人々に病気治療と健康保持を教えることしかできません。ですから、一部の氣功師はこの方法を使って人々のために有益なことを行なったのです。つまり社会で伝わっているもの、外国に行った氣功師を含めて、ただ病気治療と健康保持の次元のものしか伝えていません。ここでは他の氣功が良くないと言っているのではなく、彼らは高い次元のものを伝えておらず、ただ病気治療と健康保持のものを伝え、同時にいくつかの機能の演出を行なっていただけです。病気を治療するとき、いくつかの機能が必要になるため、いくつかの超能力の演出があったのです。

この「超能力」はただ一つの近代の名詞で、実際は生命の本能にほかなりません。現在、物が豊かになり、科学の進歩とともに、人々はますます現実のものを認識するようになり、人間の先天的な本能、最も古いものを棄てるようになりました。もしこのように歩み続けるならば、将来、技術がさらに発達すれば、人間はますます退化します。現在、電車、自動車、飛行機があり、みなあまり道を歩く必要がなくなりました。将来、物質面のさらなる発達とともに、人間は酷く退化することになるかもしれません。いわゆる進化論の理論に従って推論すれば、将来、表面の人体も退化し、最後には四肢も変異、退化して、大きな頭だけが残ります。もちろん、これは喻え話ですが、つまり、人間の本能的なもの、先天的なものがますます多く棄てられているということです。

中国の地方において、その古代の社会はこのように発展してきたのではありません。中国古代の社会の状態に従って発展していくれば、技術の進歩がありうるのかと思う人がいるかもしれません。もちろん、現在の科学技術理論の枠の中で他の科学を認識するなら、永遠に認識できません。現代科学の枠から飛び出して、他の科学を認識しなければなりません。そのような文化の中で、人々は同様にそ

のような社会状態が現れるのは当たり前だと思うはずです。「もし古代東方人の社会状態に従って発展するならば、自動車や飛行機がありますか？私は昨日香港からシンガポールまで飛んできて、三時間あまりで着いたので、とても速いのです。人類は進歩しており、もし中国の古代社会の状態に従って進んでいけば、このようになるのでしょうか？」と言う人がいます。

実は皆さんも知っているように、異なる科学方法は異なる科学の発展をもたらすことができます。例えば、もし古代中国の社会状態に沿って発展すれば、皆さんが知っているように、気功修煉で人体の潜在能力を開発することができます。つまり、気功修煉により無形のものを有形のものにすることができる、見えないものを最後に見えるものにすることができます。しかも、いかなる器具も使わず、いかなる現代科学技術の手段も使いません。気功修煉で坐禅を組んで入静した後、最初はあまり大きな感覚はありませんが、完全に入静できた時、体は動いていませんが、内側が動いているを感じます。しかも、この動きは次第にはつきり感じるようになり、最後には自分の意識がこの動きを制御できるようになります。これで無形から有形になったのです。最後にこのような意識と感覚は徐々に煉功者が絶えず昇華するとともに、有形のものを形成することができるようになります。宇宙にはまだ多くの現代の科学技術で認識できないエネルギー物質が存在しています。それらが絶えず煉功者を強化していくとき、見えない無形の物質は次第に有形になり、見えるようになり、ひいては運用できるようになります。このような発展の道に沿って進んで行けば、必ず人の素質の昇華が現れます。昔、学生は儒生と呼ばれ、授業を受ける前、坐禅を組み、息を調べ、心を静めてから本を読み始めます。昔はこのようにしていました。中国古代の各業種の中では、ほとんどみな息を調べ、心を静めることを講じています。このような状態の下で、普通ではできない事を多くやり遂げられます。これはすでに気功の修煉に非常に近づいています。古代中国の思想観念の中にずっとこのような文化が伝わっています。

先ほど話しましたが、このように発展すれば、飛行機がありますのか、電車がありますのかと思っている人がいます。異なる科学の発展の方向により、異なる

科学の状態をもたらすことができます。皆さん考えてみてください。もし人間が飛ぶことができ、漂い浮き上がることができれば、まだ飛行機や電車が必要でしょうか？ 中国にも、インドにも、アメリカにも、いずれもこのような人がいて、法輪功修煉者にもこのような人がたくさんいます。どうしてこのようにできるのでしょうか？ 人の全身の脈が完全に貫通された後、塞がるところが全く無くなったら、この人は空中に浮き上がることができます。もちろん、現代の科学的研究はまだそれを解明していません。研究する勇気のある人もいませんでした。なぜなら、信じようとしないいわゆる科学者に笑われ、名声を失ってしまうことを恐れていたからです。皆さんが知っているように、暫く前に、あるアメリカ人がシンガポールに来てパフォーマンスを行い、多くの人は彼が空中に浮き上がったのを見ました。これは実際に存在する現象です。人は確かに浮き上がることができます。それでは皆さん考えてみてください。昔、中国には、来るときに跡も見えず、去るときに影も見えない、という言い方があります。多くの氣功師は、あるところから別のところまで千里離れていても数秒で着くことができます。彼はなぜこのようにできるのでしょうか？ 当然ながら、多くの未知のことを詳しく分析して説明しなければならないのですが、今日は詳しく説明しません。私はただ概略的に異なる科学の発展が、異なる状態をもたらすことができると話しています。飛行機があるので、三時間で香港からシンガポールまで飛んで来ることができるとあなたは言いますが、彼がそこに坐れば浮き上がり、十数分で飛んで来るかもしれません、しかもそのような大げさな機械を作る必要もありません。これらのこととは摩訶不思議なことでもありません。人々が解釈できない多くのことは科学で実証されています。確かにこのような状態に達することができます。現在の科学の視点に立って、別の科学の道を認識しようとしてはいけません。

もちろん、氣功は現代の言葉で言っても一種の科学であり、しかも更に古く、更に高度な科学です。多くの科学者は人体科学と古代科学を実証する勇気があり、彼らには実在する氣功現象が見えたからです。

もちろん、氣功の存在に反対する人もいます。在席の法輪功学習者の皆さんに教えますが、あなたが他の人に法輪功を学びに来るようになると教えるとき、信じな

い人、ひいては反対する人もいるかもしれません。これもごく正常なことです。なぜでしょうか？ 人類社会はこのように矛盾して存在しているからです。もし、誰もが気功を信じ、誰もが佛法を信じ、誰もが修煉できるならば、人類社会は存在しなくなり、すべての人は天人になり、神になります。反対する人、支持する人、信じる人、信じない人がいるからこそ、このような矛盾した相生相克の社会が構成されたのです。各業種、常人社会のあらゆる事において、いずれも正と反の二つの面が同時に存在するという要素があります。良い事を行いたければ、必ず良くない事が現れます。この困難を突破して、はじめてその良い事をやり遂げることができます。もちろん、人が悪い事をするのも容易なことではなく、国家の法律があり、良い人も許しません。ですから物事はこのように存在しており、これはいずれも正常なことです。宇宙には二種類の異なった性質の物質が対立して存在しており、下へ進んでいけば、一陰一陽の太極の理論が生まれました。更に下へ進めば、相生相克の理が現れました。この相生相克の理は常人社会での現れが最も突出しています。ですから、私が先ほど話した古代科学に関して、信じない人もいれば、信じる人もいます。私が今日伝えたこの佛法修煉を含めて、支持する人がいれば、反対する人もいます。これも正常なことです。今後、皆さんもいずれこのような事に出遭うことがあるでしょう。別に驚くほどのことではないと私は思います。

私は法輪功の歴史を話す前に、少し話を広げて、先ほどのことを話しました。人々が今日認識した気功も、一種の古い科学です。法輪功を含めて、いずれも先史文化です。李洪志は今日頭が熱くなり、一通りのものを編み出して皆さんに伝えたわけではありません。そのようにすれば人を害することになります。現在多くの偽気功師が人を騙して、人を害し己を害しています。通常、功が発せられた時、この空間を通らず、人の肉眼では見えないので、多くの偽気功師は人を騙して、本物を装い、真偽を混同させています。もともと気功を信じない人が多くいるので、こうなると更に気功に反対することになってしまいます。特に現代人の道徳はもう駄目になり、どんな事にも本当のことと偽のことがあり、商品さえも偽物があり、まして気功はなおさらです。当然ながら、勝手に一式の気功を編み出して人を騙してはならず、そうすれば人を害し、自分をも害します。なぜなら、

人を騙す者自身も、どんなものを練り出すことができるのか知らないからです。もちろん、何も練り出すことができなければ、それは構いませんが、もし本当に何かを練り出すことができたなら、人を非常に危険な境地に落とす可能性があります。これは偽気功が人々にもたらした危険です。

それでは、この法輪功はどのようにして生まれたのでしょうか？ いつ生まれたのでしょうか？ 邋ってみれば、その歴史はかなり長いのです。常人が聞けば摩訶不思議に思うので、今は言わないようにしましょう。皆さんは徐々に分かるようになります。しかし、皆さんに教えますが、人類の先史の時期に、法輪功は主要な佛法としてこの世で人を済度したことがあり、二千五百年前に釈迦牟尼が人を済度した時と同じように、かつてこの世で衆生を普く済度したことがあります。かなり長い歴史の間に、人類に法輪功を示したことはありませんでした。相当長い歴史になったので、今の世の人々はなおさら、分からなくなりました。法輪功の歴史は相当長く、はるか悠久の昔からあるのです。

今日、なぜ法輪功を伝え出すことができるようになったのでしょうか？ もちろん、私は最も分かりやすく、最も表面の情況からしか話せません。私に一つの情況が見えました。どんな情況でしょうか？ 人類社会は物質的に豊かになり、科学の急速な発展とともに、人類の道徳は大きく滑落しています。現在の人々はみな科学を信じ、現代科学が真理だと思っています。しかし、人々はある問題に気づいていません。現在の科学は完備されておらず、科学に認識されていないものがまだ多くあり、その上、科学に排斥されているものも多くあります。多くの頑なな人がこの完備されていない科学を用いて、人々が信じている科学で解釈できない現象を攻撃しています。しかし、これらの科学により解釈できない原因不明の現象は、確実に現実の人類社会のこの空間に現れています。現代科学はそれを認める勇気がありません。科学に認められていないので、科学を信じている多くの人々は同じ観念を抱いて反対しています。しかし、この科学は、本当は健全なものではありません。例えば、数千年来、人々は徳を重んじてきましたが、現在多くの人はこの徳が人の思想の中、頭の中の一種の善良な意識で、人に対する一種の精神的な要求だと思っているだけで、それ以上多く考えていません。しか

し、皆さんに教えますが、宇宙のいかなるものも、物質によって構成されているので、その要素的な存在もありえたのです。この徳は本当に物質的な存在で、確実に物質的な存在の現れです。昔、東方の人、特に中国において、年配の人はよく徳を積む、徳を積むと言います。若い人はなぜ徳を積むのか？ どんな徳を積むのか？ この無形のものをどのように積むのかが分かりません。実は皆さんに教えますが、徳は形があるので、ただ人の目には見えず、別の空間に存在しています。しかも常にそこに存在しています。良い事をすれば徳を積むことができます。苦しみに耐えれば、徳を積むこともできます。徳は何回生まれ変わっても人に付いていて、この徳によりあなたの将来の福報が決められます。高官になる人がいれば、多くの財産を築く人もおり、大きなビジネスに成功する人もいます。これはすべてその人が以前あるいは前世において徳を積んだので、今世で福を得たのです。なぜ多くの人は生活において他の人ほど豊かではないのでしょうか？ つまりその人は他の人ほど徳が多くなく、それほど積んでいないからです。これが原因です。ですから、この徳はきわめて肝心なのです。先ほど、私は科学が完備されていないと話しましたが、現在この科学は人類のこの物質空間を突破することができず、他の空間を認識することができません。しかし今、多くの特に優れた科学者はすでに別の時空の存在を認識し、まだ突破することはできませんが、すでに理論上での浅い論述を発表していて、別の時空が存在するかもしれないという問題を提起しました。それでは、その時空に生命がありますか？ その生命はどのようなものか、どのような存在形式なのか？ その中の時間とわれわれの空間の時間とはどのような違いがあるのか？ その空間の概念、生命の形象、物質の形式はどのようなものなのか？ これは現在の人類科学にとってすべて未知のことです。現代科学は別の空間の存在を認めず、徳の存在も認めていません。皆さん考えてみてください。人類はあまりにも科学を信じているので、科学が認めないものを人々は信じません。これはまさに、科学が人類の道徳の激しい滑落をもたらした要因ではありませんか？ 人々が徳を積む、徳を重んじるなどと徳のことに言及すれば、多くの現代意識に染められた人は、「あなたは迷信を言っています。それはすべて迷信です。私たちは科学を信じ、それらの迷信を信じません」と言います。皆さん見てください。すでにこの科学の棍棒を用いて人間の最も本質のものを叩いています。それでは、この科学が完備されたものと言えるの

でしょうか？ 先ほど話しましたが、人類の物質上の生活はとても豊かになりましたが、どうして道徳の観念が滑落しているのでしょうか？ 現在の科学は他の空間と高級生命の存在を実証することができず、人類には輪廻と応報があることを実証することができず、徳の存在を実証することができないので、人々は悪事をする勇気があるのです。現代人の多くは、「これはすべて迷信で、非科学的だ」と思っています。神の存在を信じないので、悪事をする勇気があるのです。応報を信じず、すべてが迷信だと思っています。これは現在の科学の不足によってもたらされた最大の問題です。

私は思い付いたことを話しています。先ほど法輪功の由来に言及しましたので、話を広げてこの問題について話します。

修煉界で話されている多くのことは、常人社会で話すことができません。しかし、常人社会の中でも、多くの人が見たり聞いたりすることによって少し知つており、たまに解釈できない現象を見たり感じたり、あるいは特別な現象に触れることがあるかもしれません。しかし、それらを実証し、系統的に研究する人はいません。

先ほど学習者が演壇でこの法はきわめて貴重なものだと話しました。私もここで皆さんに多くのことを話しました。まだ本を読んでいない人は『轉法輪』を読めば分かるでしょう。『轉法輪』は法理であり、法はもちろん修煉者に伝えるものです。修煉というと、多くの人はとても難しいと思っています。実は修煉そのものは難しくなく、常人の心を放下すること、人の執着を放下することこそ最も難しいのです。常人の心はどんなものでしょうか？ 例えば修煉者として、まず殴られても殴り返さず、罵られてもやり返さないようにしなければなりません。常人はできません。彼らは常人だからです。修煉者は必ずできなければなりません。しかも他人にいじめられたとき、あなたは怒りも恨みも持つてはならず、平然と対処し、ひいては恩讐を一笑に付し、殴られても殴った人に心から感謝しなければなりません。常人はこんなことを全く理解できず、どうしてこのようになるのか？ あまりにもひ弱になりましたと思っています。実は他人にいじめられたと

き、彼はあなたに徳を与えており、まぎれもなくあなたに徳を与えていきます。この宇宙には多くの肉眼で見えない膨大な物質が存在しており、現在の科学でも発見できません。これらの更にミクロ的な数多くの膨大な物質は、みな靈性があり、生命があるので、自分たちより低いすべての生命を制御しており、同時に全体的に宇宙のすべての均衡を保っています。しかも、宇宙には失わなければ得られず、得るには失わなければならぬという理があります。人は何かを得ようとして交換しなければなりません。これは「失と得」と言います。どのように失うのでしょうか？　この空間で常人には見えませんが、時に感じることができます。一般の人は苦労して努力することによって得たいものを得るのですが、苦労することなく無理やり得た場合、神から償わせられるのです。例えば、ある人が他人のものを奪い取ったり、人を殴ったりした場合、この人は利益や精神面で無理やり得ようとし、代償を支払うことを考えていません。しかし、この宇宙は得た人に代償を支払わせるようになっています。失いたくなくても失わせなければなりません。どのように失うのでしょうか？　あなたは他人を殴ったり、いじめたり、あるいは他人のものを占有したりして、得れば得るほど、他の空間ではあなた自身の範囲内から、それに相応する徳が相手のところに飛んでいきます。しかも、この徳は利益や金銭に変換することができます。つまり、人がものを失わせられた場合、相手はこの人に代償を支払わなければなりません。常人はこのことがわからないので、悪事をする勇気があるのです。多くの人は商売をしているときに騙されて、あるいは余儀なく何かを失わせられた場合、もし自分が悪事をして徳を失ったことによってもたらされた結果でなければ、暫く時間が経つてから、またそれ相応の報酬が得られます。それはすなわち損失をもたらした人に償わせたのです。しかし、人々はそれを偶然なこと、あるいは自分の努力によって得たものだと思ってしまいます。人間には本当の原因が分かりません。ここで皆さんに教えますが、徳はきわめて貴重なもので、いかなるものにも転化することができます。現代人はこれらのこと信じることができません。なぜなら、科学ではこれらのこと解明できていないからです。これが人類に著しい道徳の滑落をもたらした原因の一つでもあります。しかし、この宇宙の膨大な物質、高級生命は確かにこの宇宙の均衡を保っています。あなたが失うべきでないものを失えば、それ相応の補償を得ることができます。相手は失いたくなくても失わなければなり

ません。宇宙の力は直接他の空間で作用しているからです。これは一つの簡単な例です。実は被害者の得たものは更に多いのです。私は時に人が苦しみを嘗めるのは、悪い事とは限らないと話しています。昔のお年寄り、特に中国のお年寄りは、今苦しみを嘗めれば将来は楽になると言いますが、つまり、こういう道理です。イエスは左の頬を殴られたら、右の頬も差し出しなさいと言いました。人々はこれを理解できず、実は今多くのカトリック教徒、キリスト教徒もこれを理解できません。道理から言うと、どうしてこのようにするのでしょうか？ イエスはただ表面のことだけを話して、更に深い内函を言いませんでした。つまり、彼はあなたのこちらの頬を殴っている時、あなたに徳を与えており、同時にあなたの罪業を消すことを手伝っています。それでも、殴る者の鬱憤がまだ晴れなければ、あなたは更に反対側の頬を殴ってもらえばよいのです。彼はあなたの業を消すことを手伝っていると同時に、あなたに徳を与えているではありませんか？ あなたは苦痛を味わったのであなた自身の業力も消去されます。人々はみな業を造っています。殺生をしたり、人をいじめたり、罵ったり、恨んだり、あるいは悪事を働くたりすることは、すべて業を造ってしまいます。業は一種の黒い物質で、人体の周囲に存在しています。業力はその人に苦痛や疾病をもたらし、あるいは厄介なことに遭い、商売がうまくいかず、人に殴られたり罵られたりして多くの苦痛をもたらします。誰かに殴られたり、いじめられたりした時、あなたを殴る人はあなたに徳を与えなければならず、あなたが苦痛を味わっている時、あなた自身の業力も徳に転化されます。これで一挙両得になります。常人としては一挙両得になりますが、修煉者として、これは乗り越えなければならない関です。苦痛の中でうまく関を乗り越えることができれば、心性が向上します。心性の向上はつまり次元の向上であり、功も伸びます。徳は功に転化されます。理をはつきり話しましたが、実際の修煉ではやはり皆さん自身が行うしかありません。

実は私は法を伝えているだけでなく、今まで誰もやったことのないことを行い、本当に人間に天に昇るはしごを残しました。あなたがこの大法に従って修煉すれば、必ず圓滿成就できます。今まで、特に人類の次元において、この法は誰も説いたことがありませんでした。信じられなければ古今東西のすべての書物を調べてみればよいのです。『道徳経』、『聖書』、『佛経』はいずれもこのように天機をす

べて漏らして法を説くことはありませんでした。

釈迦牟尼は佛です。人々は釈迦牟尼佛が佛法を残したと思っていますが、釈迦牟尼佛自身は一生何の法も残していないと言いました。人々は彼の言った言葉の意味がわかつていません。禪宗は法がないと思い、釈迦牟尼佛さえ佛法を残しておらず、他の誰も佛法を説くことができず、説いてはならず、説いたら佛法ではなくなると思っています。この理解は完全にずれてしまいました。それでは、釈迦牟尼佛のこの話はどんな意味でしょうか？ 釈迦牟尼は神であり、人を済度するために常人社会に転生して、圓満した後、佛に成就しました。彼の話は佛性を持っています。彼が説いたのは、系統的な修煉の佛法ではありません。佛性を持っている言葉はその一層の法理ですが、系統的な宇宙の根本の法ではありません。実は後世の人が整理した経書も断片的なもので、系統的なものではありません。確かにこのようです。釈迦牟尼は二千五百余年前にその当時の人に対して法を説きましたが、今日の人類の情況も見えました。そのため、釈迦牟尼佛は当時、末法の時期になると彼の法が人を済度できなくなると話しました。実は現在の人は釈迦牟尼佛の説いたことを理解できなくなっています。

西側諸国の宗教の『聖書』も含めて、現在、人々はそれらを正しく理解できなくなりました。現代人の思想が非常に複雑になったからです。人々はこのように理解し、どのように理解し、すべてを現実的な感情と損得で理解し、本当の内涵は却って理解できなくなりました。

皆さんに教えますが、『轉法輪』は確かにとても貴重で、人類のいかなる本とも比べることができません。これは修煉の本であり、人を圓満成就にまで導くことができる非常に厳肅な大法です。先ほど『轉法輪』を開いて見ると、すべての字が金色に輝いていると話した人がいました。もし皆さんが修煉し続けていけば、圓満成就にまで精進することができれば、あなたは精進する過程、修煉する過程で、多くの常人には見えない、体験できない感覚や光景を見たり、体験したりすることができます。その時、あなたはこの本がどのような本なのかが分かるようになります。私がここでいかに説明しても限られており、多く言うと不可思議に

思われる所以、やはり皆さんのが自分で悟り、自分で実証した方がよいと思います。私が皆さんに教えたのは、ただ、この法がきわめて貴重だということだけです。

私がこの法を伝え出した当時、多くの高級生命、大覚者は伝えないようにと私は言いました。人類の道徳がすでにここまで堕落したのに、あなたはまだこんな素晴らしいものを持ち出して、人類が最も良い時期においても、あなたは伝え出さなかつたのに、今になって伝えるなんて？ と彼らは言いました。神はみなこのように思っています。

皆さん考えてみてください。私は先ほど業力と徳の問題を話しましたが、業力と徳は人について転生するのです。人はこの世のものを何も持っていくことができず、ただこれらのものが人について輪廻するのです。輪廻に言及しましたので、皆さんに教えますが、宗教では人が死んだら別の空間に入るといわれています。特に東方の宗教にはみな六道輪廻の説があり、人間は確かに転生します。これは真実なのです。修煉界では全く疑う余地もなく、みなはつきり見えています。なぜ転生するのですか？ 人が死んだらすべて終わるのではないかと言う人もいます。死んだのは後天に人類の食べ物を食べて成長してきた部分であり、人の生命は死んでいません。

現在の人類が認識できる方式から言えば、皆さん考えてみてください。人間の身体は分子粒子からできた表面物質によって構成されたものであり、これは誰もが知っています。地球の周りの空気、木材、建築物のセメント、鋼鉄も含めて、これらはすべて異なった分子粒子からできた表面物質です。それでは分子はまた原子から構成され、原子はまた中性子、電子、原子核から構成されています。更に下へ追っていけば、原子核はまたクォークから構成され、原子核はまた中性微子から構成され、更に下へ追っていけば、人間はもう知る術がありません。実は人が死んだ時、ただ分子粒子からできた表面の物質空間の肉体を脱いだに過ぎません。まるで衣服を脱ぐと同じです。しかし、原子、原子核、クォークより更にミクロの物質から構成された体の部分は、全然死んでおらず、人体の表面物質の死亡とともに死ぬはずはありません。皆さん考えてみてください。原子核は分裂

が起きたら、核爆発になります。人が死ぬ時に原子核を分裂させるほどの大きな力があるでしょうか？ 現在の科学で核分裂を起こすには、かなり大きな熱量とかなり大きな重力の衝突のもとで、はじめてその分裂を起こすことができます。常人の体に核分裂を起こすほどの大きなエネルギーがありえるでしょうか？ 火葬場の温度は絶対に原子核の分裂を起こすことができません。つまり人体を構成した更にミクロの物質は、焼却炉の火によって破壊されません。もしその火で本当に体の原子核を分裂させることができれば、それはつまり核爆発です。人間の体に存在する核物質が爆発すれば、かなり大きな範囲の都市を壊滅させます。原子ですから、エネルギーは相当大きいのです。どうしてこのような事が発生しないのでしょうか？ つまり、人体にある原子の成分が破壊されていないからです。

皆さんが知っているように、原子核、原子は人体にとって強い放射性があり、つまりそれは一種のエネルギーです。実は更にミクロの物質——クォークのエネルギーの放射性は原子核の放射性よりもっと大きいのです。さらに中性微子の放射性はクォークとは比べられないほど強いのです。ミクロになるほど粒子のエネルギーはますます大きくなります。皆さんに教えますが、皆さんに煉り出した功の中に強大な原子、中性子、更にミクロに至るまでの物質があります。煉り出した功はなぜ病気を治すことができるのか？ どうして人の体を変えることができるのか？ なぜ修煉者はさまざまな奇跡を起こすことができるのでしょうか？ 功と功能はこのような更に高次元のエネルギー物質によって構成されているからです。しかも、正法修煉の中でこれらの物質はすべて生命と善良な本性を持っており、修煉者本人の意識により制御され、人の考えに支配されていて、科学の方法で原子の分裂を起こしたときのような悪質な破壊性はありません。科学の方法で原子爆弾を爆発させることによって放出されたエネルギーは悪質なもので、指向性もなく、人やほかの生命のすべてに対して傷害があり、人間の生存環境にも強い傷害を与えます。しかし、修煉者が放ったエネルギーは意識があり、良い作用を発揮できます。中国科学院の研究員は私に対して測定や、鑑定を行なったことがあります。私が法を説く時に放出したエネルギー物質は測定できます。中国科学院高能物理研究所は高エネルギー物理を研究する専門機関です。彼らは説法の会場の四隅や中央、様々な場所に機器を設置し、私の説法に使うテーブルの上

にも機器を設置しました。彼らが測定した結果、私が放出したエネルギーの中には、原子の成分以外に中性子の成分も相当多かったのです。もちろん、彼らはこの程度しか測ることができず、もっとミクロの物質を測定する機器を持っていません。彼らが不思議に思ったのは、私が放出したエネルギー場は均等に分布しており、エネルギーは指向性があります。現在の科学的研究で分かっているのは、核物質が出てくる際は指向性がなく、どこへ放射していくか分からず、しかも近いものは強く、遠いものは弱く、放射範囲内のすべてのものを傷めてしまいます。もちろん、現在の科学は完備されておらず、それを過剰に信じれば、人類にとつてきわめて有害なのです。

先ほど、人の生命は人体の死亡とともに亡くなることはないと話しました。つまり、人の元神は肉体の死亡にともなってこの空間から抜け出でていきます。元神はもともと他の空間に存在し、生まれる時にこの空間の人体と一体になります。この空間の体が死んでしまう時、元神は抜け出でていきます。宗教で言われた六道輪廻も真実です。生命は六道輪廻の中で転生します。人は繰り返し人に転生したり、物質や動物、さらに高級生命、あるいは他のものに転生したりすることもあります。

佛教では天眼通、慧眼通、法眼通、佛眼通などの五通が言われています。もし、法眼通まで開かれたら、あなたの前に現れた世界はこの様子ではなくなります。どんな様子でしょうか？ あなたは自分の目があなたの次元でのあらゆる物体を透して見えることに気づきます。更にミクロの物質が見え、しかも、あらゆる物体にはすべて生命があることに気づきます。物体はあなたにそれらが見えると分かったとき、あなたと交信することになり、言語での交信、思惟での交信を行います。一部の常人はこれらを摩訶不思議な話、怪しげな話だと思います。もちろん、これらは修煉のことであり、法輪大法の学習者に対して話したことです。皆さんは修煉者であり、私は常人に対して話しているのではなく、勝手に常人に話してはいけません。多くの常人はこれらのこと信じないです。

それでは、その時になると、どの物体の生命も以前に人間であったかもしれません、

死んだ後、また他の物体に転生したとあなたに分かるでしょう。ここで、一つ付け加えますが、転生する中で人は業力を持っており、同時に徳も持っています。現在の人類は道徳の堕落にともなって、徳という物質はますます少なくなり、業力はますます多くなっています。生命は転生しているので、現在、見た目では人身に黒い業力があるだけでなく、物体にも黒い業力があります。生命は六道輪廻の際に、これらの業力を持って行くので、あらゆる物体に業力が存在する可能性があり、すべてが病気を引き起こす可能性があります。人類のこの空間での業力の現れは、つまり微視的なウイルスです。現在、業力が多すぎて、いかなる物質も業力を持っている可能性があります。皆さん気が知っているように、昔の中国の農民は、畑で耕作する時に手を怪我したら、土の粉末を少し傷口につけ、そのまま放っておけば、間もなく治りました。現在の土は触れることも恐ろしく、常人はそれに少しでも触れたら感染して化膿するかもしれません、また破傷風に罹って死んでしまうかもしれません。なぜでしょうか？　これは現在の土がすべて業力を持っていることを示しています。ですから、高次元の空間から振りかえって地球を見てみると、至る所に業力があり、黒い波がうねっています。人間の目には見えないので、人々はまだとても良いと思っています。

皆さんはインフルエンザを知っているでしょう。インフルエンザは実は濃度のかなり高い業力の塊が流れてきてもたらしたものです。癌やエイズなどは、特定の対象者に対して発生した悪質な業力の病気です。エイズは性の乱れと同性愛に対して発生したもので、密度がもっと高い業力です。一般的に、業力の多い地区では人が病気になりがちです。濃度の高い業力が現れる地区では伝染病が発生します。これはこの地区の人々の造った業が多すぎることによってもたらされたことです。

私はなぜこれを話したのでしょうか？　私は人類の道徳がかなり滑落したとみています。もしこのまま進めば、人間はもっと大きな危険に直面するようになります。もし天上の神が人間を人間としてみなさなくなった時、それは本当に危険なことになります。人間は人間としての行為があるべきで、外形があるだけでは人間とは限らず、サルも人間に似た外形を持っています。もし人間に人間の道徳

規範、人間の道徳基準がなくなったら、神はもう人間を人間とみなさなくなります。そうなれば、人間は最大の危険に直面するようになります。なぜなら、人間は神によって造られ、神によって管理されており、人類の正統な文化も神の意思に従って現れたもので、人間は人間の規範から離れると、神に淘汰されることになるからです。人間は知らないうちに、自覚しないうちに波に流されるまま、すべてを悪くしてしまい、自分を悪くし、社会を悪くし、特に人類の道徳を悪くしたことに私は気づいています。現在、最も顕著に現れたのは文化の魔性化によって人の気性が悪くなつたことです。それによって、社会において暴力団や麻薬、性の乱れ、同性愛などが現れ、人類社会に虚言が満ちて、甚だしきに至っては暴力団のボスも崇拜の対象になりました。このような多くのことですが、皆さん考えてみて下さい。それらは正常なのでしょうか？ 人類の観念はこれほど大きく変わつてしましました。これだけに留まらず、各方面、各領域で人々の思想に大きな魔性が存在しています。私がこの法を伝える目的は、人々をこの険惡な環境から離脱させ、眞に修煉の中で済度することです。もしあなたが本当に修煉し続けていくことができれば、私は本当にあなたを圓満成就させることができます。

先ほど、この社会の現象を話しましたが、私は現在、社会のために何かをしたいのではなく、何かをしようとも思っていません。しかし、この法は人を済度することができ、人に善に向かうことを教え、本当に人の心性から、本質からあなたを変えることができます。多くの人は修煉しませんが、この法を知れば、良い人になるように心がけます。人々は悪人になることが自分自身に大きな傷害をもたらすと分かれば（拍手）、自ら良い人になるように努めます。つまり、正法が一旦伝え出されると、必ず社会に対して有益になります。

この数年間、私はずっと一つの原則に基づいて法を伝えています。つまり人と社会に対して責任を負うという原則でこのことを行なっています。私はいい加減にしたことはありません。皆さん気が知っているように、私は法を伝えるために、遠路はるばるシンガポールにきました。皆さんから一円ももらうつもりはありません。これが終わつたらすぐ帰ります。私はただこの法を皆さんに残したいだけです。多くの学習者は次のように私に尋ねたことがあります。「先生、この宇宙に

は失わなければ得られずという理があります。得るには失わなければならず、失えば必ず得ることになります。あなたはこのように代価を求めずに私たちを済度し、こんなに多くの素晴らしいものを与え、私たちに法を教え、私たちを見守つて修煉させ、業を消し、その上私たちの身体に多くのものを植えつけ、また異なる次元での問題も解決し、まさに修は己にありて功は師にあります。それではあなたは何が要るのですか？」私は何も要らないと言いました。私はあなたたちと違い、この事をするために来たのです。もし私に何がほしいかと言われたら、私は皆さん的心、修煉の心、善に向かう心だけが欲しいのです。（拍手）

私は時間を取りすぎたのではありませんか？（笑）もし時間があれば続けて話します。佛を修める方法はたくさんあります。皆さんが知っているように、皆さんが修煉しているこの法輪功は佛家の理であり、ただ私は釈迦牟尼の当時の言葉を使って説いていないだけで、それを使うのも不可能です。今、言語は変化したため、現在の言葉を使って法を説くしかなく、現在の人類の言葉を使って功を伝えることにしました。私が今日伝え出した法は、当時の釈迦牟尼の説いた佛法と違いがあります。なぜでしょうか？私が修煉者に与えた修煉方式、修煉対象も、昔の方式ではなく、修煉者の心性および次元に対する要求はより高く、果位もより高いからです。なぜなら私が説いたものは、宇宙の最も本質的な法だからです。釈迦牟尼佛が当時話したことには佛性があり、その次元での佛法だと言えますが、宇宙を造成する根本の法、最高の真理ではありません。宇宙の最高の真理はすなわち真・善・忍です。いかなる物質、鋼、鉄、木、石、空気、水、土、すべてのミクロの物質を含めて、その本源の構成から表面の物質に至るまで、すべてにおいて真・善・忍の特性が存在しています。全宇宙のすべての生命、すべての物質に真・善・忍が貫いています。これは宇宙の最も根本的な特性です。私は現代の平易な言葉を用いて分かりやすく理を説きました。大法はピラミッドのように、上へ行くほど簡単で、下へ行くほど龐大で複雑になります。そのため、人類や宇宙の低い次元はより複雑です。最も高いところ、佛法の最も頂点に至ると、真・善・忍の三文字で概括できます。宇宙のあらゆる最高の物質と要素はすべて「真・善・忍」から構成されたのです。真・善・忍はすなわち宇宙の精神、宇宙の特性であり、まさに真の佛法の根本なのです。昔は、これは最高の天機で

あり、多くの高級生命もこれを知りませんでした。私は本の中で多くの天機を示しましたが、皆さんも知っているように、私は不用意に天機を漏らしたのではありません。李洪志は勝手に天機を漏らし、目的もなく話して、皆に楽しんでもらえばそれで終わってしまい、あるいはあなたたちにそれを知識として聞かせているのなら、私はここで勝手に天理を破壊していることになります。もしそのようにするならば、李洪志は今日ここに立つことはありえず、ずっと前に天罰を受けてどこかへ消えてしまったはずです。法を伝える中で私が皆さんに対して責任を負うことは、皆さんが修煉して向上できるようにするためです。実践の中で私はずっと人々に対して責任を負い、多くの人も確かに修煉によって向上してきました。そういう意味から言えば、私はこのことで的のない矢を放っているのではなく、一時的に頭が熱くなつて勝手気ままにしているわけでもありません。実はこの事は歴史上遙か昔に安排されたことで、遙か昔から準備してきました。今日、皆さんがここに座つて法を聞くことができるのは、あなたにこの縁があり、その縁がすでに来ているからです。あなたが世人の中でどれほど輪廻したかにかかわらず、あなたの縁が今日来たから、あなたは法を得られたのです。

釈迦牟尼佛はこの宇宙は根本的にどれほど大きいか見えず、更にミクロの次元がどこまであるのかも見えませんでしたが、彼にはすでに相当ミクロのものが見え、一粒の砂の中に三千大千世界があるのが見えました。この三千大千世界とはどういう意味なのでしょうか？ 例えば、私たちのこの銀河系に、佛から見れば、人類、天地の体系、および神佛の存在する生命系統が三千個あり、その中に人類のような社会も存在し、各大千世界に無数の生命がいて、天神や地球の人類が存在する体系と同じです。佛は一粒の砂の中に三千個のこのような世界があると言いました。皆さん考えてみてください。釈迦牟尼はどれほどミクロで、どれほど壮観なことを語ったのでしょうか。これは決して摩訶不思議なことではありません。例えば、地球は太陽を巡つて回転しており、現在の科学者は、電子も同じ方式で原子核を巡つて回転していることを発見しました。これは地球が太陽を巡つて回転することと、何の違いがありますか？ 同じです。もしその電子をわれわれの地球ほどの大きさまで拡大したとき、その上に生命があるかどうか、どれほどの生命があるのか、それらの生命はどのような形象なのか見えるようになります。

更にミクロ的には更にミクロの生命が存在しています。釈迦牟尼は一粒の砂の中に三千大千世界があると言いました。釈迦牟尼が説いた理に沿つていけば、その砂の中に三千大千世界があり、その砂の中の三千大千世界にも人類の世界のような河川、湖、海があるのではありませんか？ ならば、その河川、湖、海の中にもまた砂があるのではありませんか？ それではその砂の中にまた三千大千世界があるのではありませんか？ もしこの論理に沿つて推論していけば、この砂の中の砂の中に、また三千大千世界があるのではありませんか？ 私が見たところでは、数え切れないほど多いのです。更に高次元の大覚者も生命および物質のミクロは尽きることがないと思っています。それでは物質はどれほどミクロなのでしょうか？ かなり高い次元の神佛もその本源が見えず、物質がどのように本源を構成しているかが見えません。人類の科学はこの方面においてまだかなり遅れしており、永遠に知ることができず、佛法と比べることはできません。現代の科学は中性微子、クォークまでしか認識できず、実は現代科学はクォーク、中性微子の存在だけを測定できましたが、見えていません。なぜなら、それほど大きな倍率の顕微鏡がないからです。ですから私は先ほど話しましたが、釈迦牟尼佛も物質の本源が何なのかが見えず、宇宙の最大の物質が何なのかも見えなかつたのです。ですから、彼は「その大は外なく、その小は内なし」と話しました。大はこの宇宙の果てが見えず、小はその本源物質のいちばん微小のものが何か見えないので。如来佛はすでに相当能力があり、この程度まで見えていますが、やはり最後までは見えません。

つまり、この宇宙はかなり広大で、物質は相當に繁雑です。物質の本源は、実はすでに物質とは言えません。それは、真・善・忍の法力と特性によって本源要素を組み合わせて合成された初期物質であり、さらに幾重にも重なる真・善・忍によってもっと大きな異なる次元の物質が合成され、さらにより大きな一層の物質が合成されています。現在、人類が認識できている中性微子、クォーク、原子核、原子、分子、さらに表面の物質に至るまで、すべては真・善・忍という特性によって合成されています。したがって、この宇宙の最終の理はまさに「真・善・忍」で、これこそが佛法の根本なのです。

話せば三文字で、とても簡単ですが、もしこの法が広がれば、それは相当大きくなります。「真」の中には多くの異なる次元の理が含まれており、「善」と「忍」の中にも多くの異なる次元の理が含まれています。常人の次元になると、「真」の中には、仁、義、礼、智、信などのさまざまな人間の理が含まれており、「善」は常人の次元になると、情が含まれています。これらはすべて、真・善・忍という宇宙のもっとも根本的な大法から派生した法理です。

情についていと、もし人類に情がなければ、人には二つの状態が現れます。一つは宇宙生物のように冷酷で、もう一つは神のように慈悲に満ちた状態です。人間には情があるので、人間と言えるのです。嬉しいとか、嬉しいとか、これは情です。人は何かが好きだとか、何かが好きではないとか、誰かと喧嘩したり、誰かと親しくなったり、喜んで何かをしたり、幾らかのお金が欲しいとか、高官になりたいとか、やりたいすべての嗜好、あれこれの夢……、世間のすべてはこの情の中にあります。人々はこの情に動かされて執拗に追求しています。法は人類社会にまで至って、人間を造成し、人間の空間を造成し、同時に人間の状態を確立しました。修煉は、実は人間の状態から抜け出して、情に動かされる心を取り除き、修煉の中で徐々に淡泊になり、徐々に自分を高めていくのです。情がなければ生きていってもつまらないと思う人がいます。映画も見ない、きれいな彼女（彼氏）との付き合いもない、美味しいご馳走も求めず、何とつまらないと思うでしょう。あなたに教えますが、これはあなたが常人の角度から理解していることです！もし、あなたが高い境地に昇華していくことができれば、その境地の美しい状態、人類のものよりさらに美しいすべてが分かるようになるでしょう。その美しさは言葉で言い表すことができません。その美しいものを得るために、あなたは常人の情に動かされ、人間の利益に執着してしまう心を放下しなければなりません。常人の執着を放下することができれば、はじめて更なる美しいものが得られるのです。

皆さんは学習者です。修煉の過程で、私は皆さんに対する要求がかなり高いかもしれません。修煉の過程で、多くの常人の執着心が一時的に放下できなくても、大丈夫です。今日法を説き終えてから、あなたたちがみなすべてをやり遂げるこ

とができるれば、直ちに佛になります。(拍手) 初心者は誰もできず、人間のすべてを一気に放下してしまうことは不可能なことです。皆さんがここに座って法を聞いてとても心地良く感じ、私の話を聞きたいのは、これは正法の威徳なのです。正法を修煉する者の持つエネルギーは慈悲であり、和やかで、すべての良くない要素を正し、取り除くことができます。ですから、皆さんはここに座ってとても心地よく感じます。将来皆さんが修煉して向上できれば、このようになります。初めの頃、皆さんは一気に達成することができず、多くの執着心がまだ取り除かれず、正念がまだ強くないからです。常人社会で、あなたが遭遇する人ととの感情や利益における一切の摩擦は、一定の妨害をもたらします。また、業を滅する中での体調の不良や、辛さ、困難の中で自分をしっかり律することができるかどうか、あなたが自らを向上させることができ、常人と同じようにトラブルに対処しなければ、すなわちあなたは向上しており、正念が強固になります。人に殴られたとき、自分が煉功者であることを忘れず、あなたたちは常人なので、私はあなたたちとは違うと思うことができれば、すなわちあなたは向上しているのです。あなたは確かに「殴られても殴り返さず、罵られてもやり返さず」ということができれば、他の人が利益の上であなたと奪い合うとき、あなたはこの心を淡泊にすることができます。ただ一念の違いだけで、あなたはすでに常人と大きく違っています。あなたがこれをやり遂げたいならば、常人の中で徐々に修煉し、向上して、はじめて達成できます。一気に達成しようと思っても、なかなか難しいのです。必ず実践の中で、試練の中で執着を取り除き、修煉して向上することが最も確実なのです。

人類の科学は永遠に佛の境地まで達することができません。なぜでしょうか？ 人類の知恵は高級生命に制約されており、制御されているからです。なぜでしょうか？ 人間は神により造られたもので、人間の理も逆になっています。「佛」とは、何でしょうか？ 佛はその次元の衆生の保障であり、衆生の庇護者であり、宇宙の真理の守衛者です。皆さん考えてみてください。人はさまざま執着心、名、利、七情六欲、嫉妬心を持ったままで佛の境地に行けば、佛と争うかもしれません。それではたいへんなことになります！ ですから、あなたは常人の中でこれら的人心を取り除いて、はじめてその境地と次元に達することができます。

現在、常人に対して、「あなたはすなわち佛です！ あなたは念佛したので、亡くなつた後、あなたは佛になります。佛になりたくなくても佛になるのです！」と言つて和尚がいます。これは佛を誹謗し、法を誹謗しています。和尚は人間であり、本当に修煉している人であつても、ただの修煉者であり、修煉がうまくいかなければ常人と同じで、何にもならないのです。彼が過ちを犯したら、罪は常人より大きいのです。これは「佛の衣装を身につけたままで佛法を破壊する」と言つます。ですから、それらの真に修めていない出家人を盲信しないでください。本当の修煉はつまり人の心を修煉するのです。人の心を取り除かなければ、永遠にその境地に達することができません。もし人間が科学技術の手段でその境地に達することができれば、本当に星と星との間で戦争、宇宙戦争が起こつてしまつます。ですから、佛は人間が科学技術の手段でその境地に達することを許しません。それはただの科学の幻想であり、永遠に実現できないことです。人間は高い次元へ行きたければ、更に高級生命を認識したければ、あなたが高級生命になりたければ、本当に宇宙の真理を認識したければ、一つの道しかありません。すなわち修煉です。これだけです。皆さんに教えますが、今後、皆さんは常人社会の中で、どんなトラブルにぶつかつても、心性の摩擦や誰かがあなたの気に障つたり、誰かがあなたの利益を占有したり、誰かがあなたをいじめたり、あなたが何かの苦痛を受けた時、皆さんに教えますが、それは悪い事とは限りません。あなたが本当に修煉したければ、あなたに教えますが、あなたの人生の道を新たに安排しなければなりません。どうして新たに安排しなければならないのでしょうか？ 人には人の一生があり、修煉する前はその将来も常人の一生であり、いつの日か命が失われるかもしれません。少し長生きできる人がいても、いつか大きな病気に罹り、何年も病気が続くかもしれません。このような人はどうやって修煉するのですか？ あるいは大きな災難に遭う人もいて、このような人はみな修煉できません。私はあなたのためにこの道を整理してあげなければならず、これらのものを全部片付けて、一つの修煉の道を安排してあげます。もちろん、勝手に常人のためにしてあげてはならず、修煉の人にしかしてあげられないのです。

それでは、なぜ修煉の人はこれほど特別なのでしょうか？ 人が生きているのは人になるためではありません。あなたの生命はこの地球に由来したのではなく、

更に高次元の空間から來たので、元に戻ることが、あなたの生きている目的です。そのため、修煉したい心が一旦現れると、黄金のように輝き、十方世界の佛にはみな見えるのです。この一念が生じて修煉したければ、これはとても貴重なのです。常人のことを勝手に動かしてはいけません。通常、常人は前世に良いことを行なっていなければ、今世で償わなければなりません。勝手に彼の業を取り除き、勝手に彼の難を取り除いたら、それは悪い事をしても償わなくてよいことになります。これは佛理を破壊し、天理を破壊していることです。こんな道理がありうるでしょうか？ 絶対にありえません。佛、道、神はみな宇宙の理を守っており、真・善・忍の法理を守って物事を運んでいます。ですから、一人の煉功者として、あなたが苦痛を受けた時、魔難に出遭った時、あなたは四つのものが得られます。人にいじめられた時、損失を被った時、利益が奪われた時、彼はいずれもあなたに徳を与えることなくなりません。しかも、これらはもっと大きな利益に変換することもできます。同時に、あなたが苦痛を受けた時、あなたは失った側になります。あなたは苦痛を受けたので、自身の業力は徳に転化し、苦痛に見合った分だけ徳に転化します。あなたは修煉者なので、このトラブルの中で他の人と同じように争わず、心の中で彼と同じようにこの問題に対処しなかったので、あなたの功が伸びてきます。なぜでしょうか？ あなたの心性が高まってきたからです。心性の高さは功の高さ、これは絶対的な真理です。功は高く伸びましたが、心性が高まっているないというようなことはありえません。なぜなら、宇宙の法はすべての生命を制約しているからです。宇宙のすべての物質はみな生命であり、みな真・善・忍により造成されたもので、彼らも人を制約しており、あなたがこの基準に符合していなければ、すべての要素はみなあなたを上へ上がらせません。私が説いた一つの道理のように、瓶の中に汚いものをいっぱい入れて、それを水の中に投げ込むと、「ドスン」という音で水の底まで沈んでしまいます。瓶の中の汚いものを少し出せば、それが少し浮き上がってきます。更に少し出せば、また少し浮き上がってきます。瓶の中の汚いものを全部出してしまえば、押さえても沈まず、完全に浮き上がってきます。それはその位置にあるべきだからです。真に修煉することは、汚いものを棄てることと同じで、どれほど捨てたかによって、あなたはそこまで修煉できるはずです。つまりこのような道理なのです。

話したいことはたくさんあります。私は皆さんに多く法を得させたいので、話し出したら多く伝えたくなります。もちろん、私が言いたいことをこの限られた時間内ですべて伝えることも不可能です。『轉法輪』は、私が中国で功を伝える時、幾つかの講習会で話した内容をまとめて、自ら修正した後、出版しました。これは系統的に修煉を指導する法です。現在、また講習会での録音、録画があり、皆さんのが参考して聴いたり、見たりしたらよいでしょう。

更に皆さんに教えますが、私は佛法の威力、私自身の多くの能力を、すべてこの本に盛り込み、この法に盛り込みました。録画テープ、録音テープ、あるいはこの本にしても、あなたが学びさえすれば、必ず変化が現れます。学びさえすれば、病気はきっと取り除かれます。あなたが修めさえすれば、あなたの身体にきっと本質的な変化が発生します。修煉し続ければ、あなたはきっと能力を持つようになり、見えたり、聞こえたりするようになります。大法の洪恩を感じるようになります。真に修煉する者に、私は佛法のすべての威力を与えます。修煉さえすれば、きっと得られます。もちろん、あなたが修煉しなければ、何も得られません。

本の内函はとても深いのですが、一回目では読み取れません。皆さんに一步一歩修煉させるのです。常人から修煉を始めたばかりの次元には、その次元での法があります。あなたが修煉して高まってきたら、この理で指導することは、もうできなくなります。例えば、あなたが中学校に入ったのに、まだ小学校の教科書で指導すれば、あなたはやはり小学生です。あなたは大学に入ったのに、まだ小学校の教科書で指導すれば、あなたはやはり小学生のままでです。つまり、修煉の進む次元に応じて、その次元の法が現れて指導し、はじめて修煉して上がってこられるのです。『轉法輪』は、常人の境地から宇宙の最高の境地までの法理を結び合わせたので、すべての次元の法理は、すべてこの本の中に収まっていますが、表面上では読み取れません。一回目に読む時、どのように良い人になるのかということが分かり、二回目に読む時、初回の時と同じではないことに気づき、三回目には、これが本当の修煉の本であることが分かるでしょう。あなたが更に読み続けると、これは一冊の天書であることに気づきます。同じ言葉に対して異なる次元、異なる境地において、異なる認識、異なる理解があります。本の中に盛り

込んだ内涵は相当大きいのです。現在、多くの人がこの本を読んでいます。すでに百回以上読んだ人もまだ読み続けています。あなたが一万回読んでも、もう読むところはないと思わないのです。かえってまだ多くの体得していないものがあると気づき、また、多くの新しい理解が得られます。ですから、この本はとても貴重です。私がここでそのすべての内容を一通り話すことは不可能です。もしあなたが修煉できれば、真剣に学び続けるべきだと思います。繰り返し読んでいるうちに、何でも得られます。一回目に感じた問題は、二回目に本を読む時にすべての問題に解答が得られます。更にまた新しい問題が生じ、三回目に読む時にはすべての問題にまたすべて解答が得られます。それから更に読めば、また更に高いレベルの問題が生じるはずです。あなたが絶えず本を読みさえすれば、すべて解答が得られます。

私が話したことは、皆さんの期待通りであったかどうか分かりませんが、(拍手)皆さんが修煉して早く上がって来られるよう切に期待しているので、話したことは少し高かったのです。適切でないところがあれば、皆さん提起してください。ありがとうございました。(長時間の拍手)